

クラス	TU317	担当教員	山本敏郎
テーマ	子どもたちが人格として尊敬される教育をつくる		
著書・論文 研究課題等	○『スクールソーシャルワーカーの学校理解』 ミネルヴァ書房 2016年 ○『学校教育と生活指導の創造』 学文社 2015年 ○『新しい時代の生活指導』 有斐閣 2014年 ○『教育改革と21世紀の学校イメージ』 いしかわ県民教育文化センター 2000年 ○『学校と教室のポリティクス』 フォーラムA 2004年 ○「教育と福祉の間にある教師の専門性」 日本生活指導学会『生活指導研究』28号 エイデル研究所 2011年。		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：生きづらさ、生活指導、当事者性、呼びかけと応答、生活者としての子ども、集団づくり etc			
<p><b>目的、内容、方法、授業計画等：</b></p> <p>教育実践入門で学んできたように、学んでいることは自分の生活には関係ないという「傍観者としての学び」を、学んでいることを自分の問題にひきつけ「当事者性のある学びへ」転換するにはどうしたらよいかを考えます。また、生徒・進路指導論で学んでいるように、子どもが自ら生活や学校をつくりかえる社会実践主体として自立していく筋道やその指導方法論を研究します。</p> <p>これらの根底にあるのは、教育は人材(manpower, human-capital)養成のためにあるのではなく、お互いがお互いを人格(personality)として尊重できるようになるためにあるという哲学です。このゼミでは、こうしたチャレンジをしている全国の教師や福祉関係者たちと交流しながら（実践記録を読む、直接訪ねる、研究会に参加する、理論書を読む…）、教育実践をつくる力を身につけていきます。</p> <p>3年生のときは、教育学に限らず、社会学、政治学、哲学、福祉の基礎的な文献を読んだり、教育実践記録を検討したり、研究会に参加したりします。4年生では研究報告を順番に行います。FACEBOOK や LINE にゼミのページを作って、3年生同士、3・4年生間で意見交流や情報交換も行います。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>① 自分が2年間 <u>何を学びたいか</u> をじっくり考えてください。 <u>自分が研究したいこと</u> があるかどうかをもっとも重要なことです。履修カルテの文献も利用するなど、 <u>少し勉強してから</u> 相談に来てください。</p> <p>② <u>知的な人間になりたい人、その努力を厭わない人</u> が来てください。卒業するころには、間違いなく、「<b>知る—問う—確かめる</b>」力がみにつき、学ぶことが楽しいと感じることができるようになります。</p> <p>③ 学びの空洞化・商品化・ゲーム化から抜け出したいと思っている人が来て下さい。</p> <p>④ ゼミで採用試験対策はやりません（学科の方針です）。採用試験目当ての人は来ないでください。</p> <p>⑤ ゼミファーストで学生生活を設計してください。自分のことを「生徒」(pupil) と呼ぶ人もいたり、あなたたちのことを「生徒」と呼ぶ大人もいるようですが、このゼミでは「<u>学生</u>」(student) であることを求めます。ですからあなたたちもわたしを teacher としてではなくて <u>professor</u> として付き合ってください。細かく管理することはしませんが、バイト・サークルファーストで <u>ゼミを軽視すると途中で追放する</u> こともあります。</p> <p>⑥ 参考までに、今4年生が取り組んでいる卒業研究論文を紹介しておきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*障がい者を産むことの障害 — ダウン症 97%中絶から見える日本社会の生きづらさ</li> <li>*学校内における居場所づくりに関する研究 — 居場所、根拠地、避難所の区別を念頭において</li> <li>*学習支援事業の転換に関する研究 — 学力競争を相対化するための学習支援へ</li> <li>*「古い」に関する論争の検討 — 「古い」の否定と肯定の二元論を超える</li> <li>*病弱児教育における発達と教育の関係の独自性に関する研究</li> <li>*子どもの発達における“うそ”の必要性に関する研究</li> <li>*〈教育と福祉〉における Agency 概念の検討</li> <li>*能力による人間関係からの脱却</li> </ul>			